

野村ダムにおける貯水池水質保全の取り組みについて

野村ダムにおける「ダム貯水池水質保全事業」「エンツァイ（中国野菜）の水耕栽培による栄養塩類の除去実験」等のダム貯水池水質保全の取り組みについてお知らせします。

平成18年6月12日
国土交通省四国地方整備局
野村ダム管理所

— 問い合わせ先 —

国土交通省 野村ダム管理所
管理所長 / 則 勢（内線201）
管理係長 / 岡田浩孝（内線332）
TEL / 0894-72-1211

野村ダムにおける貯水池水質保全の取り組み

概 要

野村ダムは、昭和57年に管理を開始し、今年で24年目になります。管理開始以来、貯水池への栄養塩類の流入による富栄養化が進み、赤潮、アオコの発生が見られるようになってきました。平成10年度以降は、アオコの発生頻度、期間、面積ともに拡大する傾向が見られ、平成15年9月には、風によって貯水池上流端に集まったアオコが腐敗し、異臭が発生する等、地域住民からも苦情が寄せられました。

これまでも、貯水池の水質保全につきましては各種実験等行ってまいりましたが、抜本的な対策には至っておりません。

このような状況を踏まえ、本年度行う「野村ダムの貯水池水質保全の取り組み」についてお知らせします。

1. 野村ダム貯水池水質保全事業

野村ダムの貯水池水質保全につきましては、平成16年度に学識者からなる「野村ダム水質総合対策検討会」を設置し検討を行ってきました。この検討会の結果を踏まえ昨年度より野村ダム貯水池水質保全事業に着手し、アオコの発生抑制対策として曝気装置の設置を計画しています。

【実施概要】

・曝気装置の設置

設置基数 : 全体計画5基

平成17年度 : 1基(設置済)

平成18年度 : 2基(予定) 平成18年度までに合計3基設置予定

平成17年度～平成18年度で3基を設置し、モニタリング調査の結果を基に、学識者からなる委員会で効果の検証を行います。

平成17年度設置の1基については本年度より運転を開始します。

2. エンツアイ(中国野菜)の水耕栽培による栄養塩類の除去実験

平成16年度より実施しております「エンツアイの水耕栽培による栄養塩類の除去実験」についても継続して実施します。

この実験は「肱川流域の環境と治水を考える住民ネットワーク」より国土交通省へ依頼があり、鳥取大学名誉教授で農学博士の津野幸人氏に技術指導をしていただき実施しているものです。

昨年度は、直径150mmの塩化ビニールパイプ製の筏及び孟宗竹で同規模の筏を組み実施しましたが、本年度も同様に実施しますが孟宗竹の筏を8基に増加し栽培実験を行います。

また、本年度は流域住民の方々(グループ)に募集をし、苗の植え付け及び管理を行っていただく予定です。

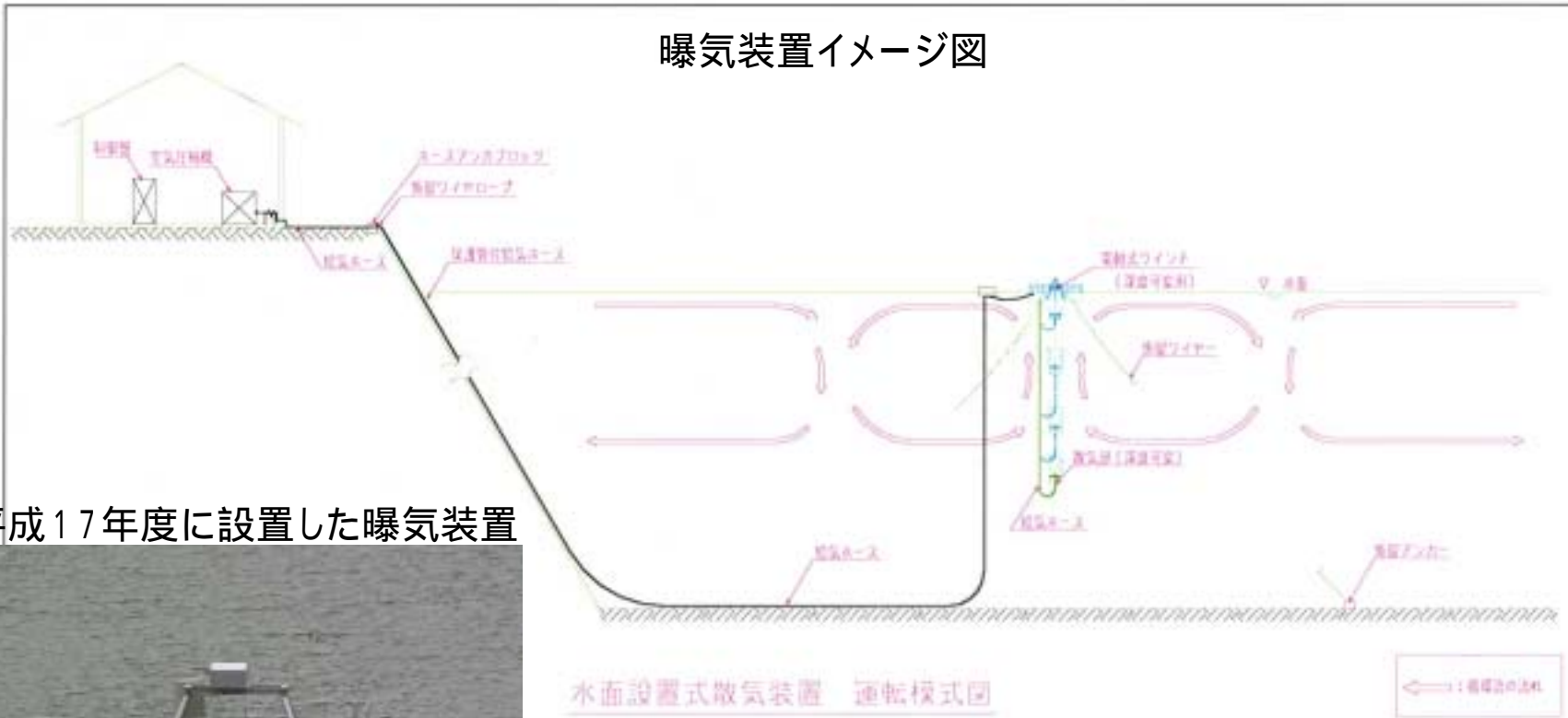
現在、育苗している苗の植え付けを下記の予定で実施します。

日時 : 平成18年 6月16日(金) 10時～

場所 : 野村ダム貯水池右岸側(野村学園下)

(場所が分からない場合は、野村ダム管理所までおいで頂ければご案内します)

曝気装置イメージ図



平成17年度に設置した曝気装置



エンツァイの生育状況(昨年度実験)

生育状況(遠景)



生育状況(近景)

